

平成29年度 多摩偕行会総会

森 清勇 陸自62

秋空の下、9月30日（土）、小平学校  
のご厚意により、多摩偕行会は総会・講  
話・懇親会を小平駐屯地で開催した。

参加者は来賓4名、陸士・陸幼12名、  
元自20名、賛助会員3名で、元自衛官の

参加が従前会員を上回る総会となった。

総会では、森繁弘会長（陸士60）から「北鮮の挑戦が迫っており、今は危急存亡の時。トランプ大統領には沈着冷静に対処して欲しいし、日本は憲法を早急に改正して自衛隊を明記し、現役の諸君が活躍しやすくなることを願うばかり」とのご挨拶があり、続いて、深山実行委員長（陸自57）から「公務報告」、熊谷会計担当（陸自57）から「会計報告」があり、全員の承認を得て総会を終了した。

中国人民解放軍は8月1日の建军90周年を記念し、7月30日、アジア最大の演習場で大規模な閲兵式と軍事パレードを実施した。習氏は迷彩服で閲兵し、訓示では「侵略する敵を打ち負かし、主権と安全を守る自信と能力がある。」と軍を鼓舞し、「強軍の道を歩み、世界一流にしなければならぬ」と一層の軍事力強化を明示し、「永遠に、党に従い、党が命じたらどこでも攻めていかなければならない」と、党が絶対的指導を堅持すること、軍に絶対的忠誠を要求した。

東シナ海では、日中間線付近のガス田施設にレーダーやヘリパッドが設けられ、軍事転用可能な施設に拡張中。尖閣諸島は東部戦区が担当で、月に3〜4日、1日2時間のパターンで領海侵入を反復しており、昨年8月以降は公船を4隻に増強。現状変更の既成事実化は、「第1列島線」のA2/A D（接近阻止・領域拒否）の目的とグレイゾーン事態の継続意図を示すもので、予断を許さない。

南シナ海は、南部戦区が担当で、7個の人工島を造成中だが、新たにフィリピオンが実効支配するバグアサ島周辺の埋立てに着手した模様で、ファイアリークロス礁の軍事基地化のように、現状変更の既成事実化と基地化の布石と考えられる。

3、北朝鮮は、核とミサイルの開発に注力しており、特に米国土に届くICBM

Mの開発を急いでいるが、部隊の現状は旧式装備で通常戦力の兵員が多く、核と弾道ミサイルによる抑止力を効率的に高めているとみられる。それは金正恩委員長夫人の李雪主が歌う「火星砲の歌」からも分かる。

ICBMの技術・運用は数年で取得の可能性があり、奇襲能力は軽視できない。3月に4発同時発射したが、1個大隊3基のため、1個中隊を予備として、2個大隊を運用したとみられる。

2006年以降、核実験を6回行ったが、威力は確実に逐次増大している。4、ロシアは、アジア・太平洋への進出に注力している。ロシアでもプーチン大統領を称える歌が盛んに歌われている。

# 多摩偕行会総会



軍改革の状況では、①契約兵（職業軍人）が徴集兵よりも多くなり、質的に向上、②装備更新比率は新48%に対して旧52%と進捗中、③戦力投射能力の向上があげられ、特に東部への大戦力投入が特色である。

東部軍管区には、ボレイ級弾道ミサイル原潜4隻が配備（欧州は2隻）されており、A2/A D態勢を整えつつある。択捉島とカムチャツカ半島間の空白地域にある松輪島の軍事調査を進めている。

中国との海軍合同軍事演習を、2012年以降毎年実施しており、16年は南シナ海、今年7月はバルト海、9月下旬はウラジオストク周辺の日本海とオホーツク海で実施した。北極航路の探究も進め



ている。

第3部は、小平学校から副校長・勝井省二陸将補以下4名のご来賓に参加していただき、最古参期の巖隆吉（陸士57）氏の乾杯で楽しい懇親会を開始。和気藹々の雰囲気の中で交流が深まるうちに、時も過ぎ、軍歌・隊歌の時間となり、「血潮と交えし」、「空の神兵」、「元寇」、「この国は」に続いて「陸軍士官学校校歌」で歌い収め。最若年期の市野保己（陸自81）氏の「万歳三唱」で終了した。